

ロンドンC.O.S.「友愛訪問員」及び病院「アルモナー」記述に関する検討

○ 沖縄大学 富樫八郎 (004096)

[キーワード] C.O.S.アルモナー・病院アルモナー、友愛訪問員

1. 研究目的

わが国のソーシャルワーク関連の専門書・テキスト（以下、専門書と略記）や社会福祉辞書・用語集（以下、辞典と略記）において、①1869年設立のロンドン慈善組織協会（London Charity Organisation Society: C.O.S.と略記）の訪問ボランティアの呼名を「友愛訪問員」(Friendly Visitor)、その活動を「友愛訪問」(Friendly Visiting)と記述している。また、②1895年、ロンドンのロイヤル・フリー・ホスピタル（Royal Free Hospital）に導入された「アルモナー」(Almoner: 貧者に施しを行う者)を、病院に誕生した「新たな専門職」扱いとした記述となっている。③また、C.O.S.訪問ボランティアと病院・アルモナーは、関連のない二分された記述となっている。

このことから、本研究の目的は、上記3点の記述が、適切な記述であるかを検討することにある。

2. 研究の視点および方法

第1に、C.O.S.の訪問ボランティアの呼名を「友愛訪問員」(Friendly Visitor)、及びその活動を「友愛訪問」(Friendly Visiting)と記しているわが国の主な専門書、及び辞典を抽出する（専門書11冊、辞典5冊）。第2に、病院「アルモナー」を、ロイヤル・フリー・ホスピタルに誕生した「新たな専門職」扱いとした記述になっているわが国の主な専門書及び辞典を抽出する（専門書10冊、辞典9冊）。第3に、英国の文献で、C.O.S.の訪問ボランティアに関する記述を検討する。第4に、米国の文献で、米国のC.O.S.の訪問ボランティアに関する記述を検討する。第5に、英国の文献で、病院「アルモナー」の導入に関する記述、及び病院「アルモナー」とC.O.S.訪問ボランティアとの関連性の記述について検討する。

3. 倫理的配慮

ロンドンC.O.S.「友愛訪問員」や病院「アルモナー」の記述に携わった研究者に負の影響がないように、引用では、専門書・辞典のタイトル、出版社、著者名を記述しない。

4. 研究結果

4-1 わが国のロンドンC.O.S.訪問ボランティア及び病院「アルモナー」導入記述の実態

(1)ロンドンC.O.S.訪問ボランティアの記述の実態

A 専門書(1958)では、「このC.O.S.には、…同時に、貧困者に対する『友愛訪問』(friendly Visiting) …」と記述。B 専門書(1972)では、「1869年にロンドンで慈善組織協会運動(COS)が生まれて、その組織のなかに友愛訪問員制度(friendly visitor)を設け…」と記述。同様の記述は、C(1975)・D(1979)・E(1990)・F(1997)・G(2000)・H(2002)・I(2006)・J(2009)・K(2014)の各専門書、及びL(1966)・M(1974)・N(1993)・O(2001)・P(2002)の各辞典にみられた。

(2)病院「アルモナー」導入記述の実態

Q 専門書(1966)では、「1895年ロンドンのロイヤル・フリー・ホスピタルでアルモナーと呼ばれるソーシャルワーカーの雇用を試みた」と記述。R 専門書(1975)では「この新しい仕事が生まれたのである。この仕事をする人はレディアルモナーと呼ばれた」と「新たな専門職」としての「アルモナー」の記述になっている。同様の記述は、S(1973)・T(1976)・U(1977)・V(1999)・W(2004)・X(2005)・Y(2009)・Z(2010)の各専門書、及びa(1966)・b(1974)・c(1982)・d(1993)・e(2001)・f(2002)・g(2003)・h(2008)・i(2013)の各辞典にみられた。

4-2 史実にみるロンドン C.O.S.訪問ボランティア及び病院「アルモナー」導入記述

(1)ロンドン C.O.S.訪問ボランティアの記述

①C.O.S.の理論的・実践的指導者であった C.S.ロックは、訪問ボランティアを、アルモナー(Almoner)と呼んでいる。ロックの1883年の著書で、“*A handy reference book for almoners and others*”と記述。また、ロックは、1890年の著書で、*The “Friendly Visiting” takes the place of “District Visiting”* (*Charity Organisation. London S.Sonnenschein & Co. p.81.*)と、英国における訪問ボランティアの活動は、米国の「友愛訪問」ではなく「地区訪問」(District Visiting)と述べている。

②1882年6月29日のC.O.S.週報(*Charity Organisation Reporter. Volume XI. p.198.*)などにも、“Notes From Almoner’s Dairy”といったアルモナーの記事を載せている。

C.O.S.設立前後の英国の関係文献に Friendly Visiting、Friendly Visitor をみることはなかった。

(2)病院「アルモナー」導入の記述

①ボーザンキット(Helen Bosanquet)は、1914年の著書(*Social Work in London 1869 to 1912: A History of the Organisation Society. New York E. P. Dutton & Company. p.219.*)で、“One of its suggestions to the House of Lords Committee had been the appointment of skilled almoners in connection with those departments”と、C.O.S.の熟練したアルモナーを外来部門に任用することの提案を記述している。

②国際ソーシャルワーカー連盟の IFSW NEW LETTER (1995)には、“Miss Mary Stewart, the first almoner, was a trained C.O.S. worker”と、メリー・スチュアートが、C.O.S.のワーカー＝アルモナーであったことを記述している。

地域の熟練した C.O.S.「アルモナー」が病院に導入され、「アルモナー」と呼ばれたのである。単独の「新たな専門職」としてのアルモナーが病院に誕生したのではない。

4-2 ニューヨーク市 C.O.S.と友愛訪問員

ロンドン C.O.S.の活動は、1877年に、ニューヨーク州のバッファローに移入される。その6年後の1883年、ニューヨーク市慈善組織協会(C.O.S.)は、『Hand-Book for Friendly Visitors Among The Poor』を発行している。米国のC.O.S.に友愛訪問員(Friendly Visitor)が誕生し、友愛訪問(Friendly Visiting)に携わったのである。

5. 考察

①ロンドン C.O.S.の訪問ボランティアとしてのアルモナー(Almoner)は、地区訪問(District Visiting)を行っていた。②友愛訪問(Friendly Visiting)に携わった友愛訪問員(Friendly Visitor)は、米国のC.O.S.の中に誕生している。③病院・アルモナー(Almoner)は、単独の「新たな専門職」として誕生したのではなく、地域のC.O.S.アルモナーのモデルがあり、その有用性を認めたC.S.ロックが、ロイヤル・フリー・ホスピタルに、アルモナーの任用を提案し導入に至ったのである。

従って、専門書や辞典において、上記①②③に沿った適切な記述が今後の課題になると考える。